

企業研究者特別講義・将来展望特論B



場所：D501大講義室

日時	タイトル・講師	概要
10月14日 3時限	ロート製薬の研究開発 ～企業における基礎研究とは？～ 佐藤康成（ロート製薬）	企業活動の大きな目的の一つに、社会課題の解決があります。ロート製薬は「Connect for Well-being」という経営ビジョンの元、美と健康に関わる様々な事業を展開しています。我々はこのような事業活動を通して、お客様に価値を提供し続けることをミッションとし、そこに貢献することが企業の基礎研究の存在意義があると考えています。今回、特にロート製薬のスキンケアに関わる事業の事例を中心にその一端に触れたいと思います。本講義を通じて、企業におけるこれからの基礎研究の役割について、将来の共創パートナーである皆様と共に考える機会になればと考えています。
10月21日 3時限	化学メーカーにおける開発・研究業務の 違いと企業研究員に求められること 山村浩樹（JSR株式会社）	JSRは半導体やディスプレイ、またライフサイエンス関連事業を行う化学メーカーです。私は入社以来、物性分析室という部署に所属し、材料開発支援を行っています。化学メーカーの研究職といえば、材料開発部門を花形に感じる方が多いかと思います。しかし、材料開発の難易度が向上している今、分析やシミュレーション技術を用いて、各材料に関する”基礎研究”を深めることはとても重要です。またこの分野は、理学部や理学研究科の卒業生が活躍しやすい領域かと思えます。本講義では、材料開発と基礎研究の違いや企業の若手・中堅研究員に求められることをお話ししたいと思います。
10月28日 3時限	何とかなるさ・何とかするさ 伊賀小弓里（HIERC株式会社）	宇宙をやりたくて阪大に入り、運よく日立の宇宙開発部門に就職して衛星搭載用の機器の開発に従事。しかし、不採算部門のため部署が解散となり、社内リストラで公共向けのSE部署へ異動。間に育休も挟んで6年ほど頑張りましたが、やっぱりアカンと退職。ハローワークで求職活動の末、今の会社（宇宙開発における信頼性・品質保証）への派遣を経ての就職。経歴は外から見れば順風満帆？内から見れば紆余曲折。こんなキャリアでも皆さんの参考になるかもと、忸度なしでお話させていただきます。
11月18日 3時限	(未定) 永田 智也（合同会社 D3 LLC）	未定
11月25日 3時限	DX（デジタル・トランスフォーメーション）時代のものづくり企業のサポーター —大学・国研の研究成果と社会を繋ぐ懸け橋として— 池田貴（先端力学シミュレーション研究所）	弊社は理化学研究所発のベンチャー企業で、情報技術でものづくり分野に革新を起こすことを目標にして設立されました。具体的には自社開発のソフトウェア以外に、大学や国研で開発されたソフトウェアの事業化を行っている会社です。本講義では、私の経験に基づき、修士・博士課程・ポストドク時代の研究と入社後のソフトウェア開発業務を比較することで、大学院での研究における経験をどのように活用すれば、社会に貢献できる企業人になれるかについてお話しします。
12月9日 3時限	日本学術振興会・特別研究員制度について 坂口愛沙（大阪大学） 山下 聡・内藤 理（大阪大学大学院生）	研究者の登竜門の一つとも言われる「日本学術振興会 特別研究員」を知っていますか？ M2～D2の大学院生が申請できる、通称「学振DC」。採用されると、博士後期課程に在籍しながら研究奨励金・月額約20万円の支給を受け、研究に集中する環境を手に入れることができます。企業に就職される方も申請できます。申請書の書き方の基本は、今後の研究費申請や就職活動にも役立ちます。自分の強みや研究の面白さをアピールする方法を一緒に考えてみましょう。
12月16日 3時限	学校の先生は普段は何をやっているのか 赤阪正純（帝塚山中学校高等学校）	最近のマスコミ報道にあるように、教育界は大きな変革の中にあります。コロナ禍におけるリモート授業、ICT教育の推進や学習指導要領の改訂など、時代の流れに合わせて教員の指導方法も変化してきました。また世間の教育界への目は厳しく、様々な誤解を生んでいる部分もありますが、この講演では、なるべく現場の生の声と実情をお伝えし、公立学校と私立学校で合わせて25年以上勤務してきた経験を踏まえて、教育界の現在、過去、未来についてお話しし、どのような人材が現場で求められているのかについてもお話ししたいと思います。